

2023 年度  
ファカルティ・ディベロップメント活動報告

東京基督教大学

# はじめに

「順境の日には幸いを味わい、逆境の日にはよく考えよ。」

(伝道者の書 7 章 1 4 節)

2023 年度は朝岡勝前理事長のリードのもと、3 月 31 日の教職員退修会および 8 月 18 日の夏期教職員研修会がともに豊田信行先生（ニューライフキリスト教会主任牧師）を講師として行われた。豊田先生は朝岡前理事長の依頼を受けて TCU の組織診断を行ってくださった。予め教職員へのヒアリングを行われた上、「チーム TCU を目指して！」をテーマに開かれた夏期教職員研修会で、豊田先生は TCU の組織上の喫緊の課題として三つのポイントを指摘された。

I. リーダーシップの機能不全—権限移譲が欠如していること

II. ミッションの不明瞭さ—それぞれが部分最適を求めて仕事が属人化していること

III. アカウンタビリティの欠如—成果責任が問われず信頼関係が構築されないこと

豊田先生の厳しくも温かい指導をいただき、TCU の組織改革に向けてグループに分かれてディスカッションを行ったが、これらは私たちが向かい合うべき根本的な課題である。

第 2 回ファカルティ・フォーラム（3 月 5 日）は、「教学マネジメント 2024 年度にむけて」をテーマに、岩田三枝子学部長、齋藤五十三教務部長、立山剛教務部職員が講師となり、2024 年度の教学マネジメントに関する実際的な準備を行った。

2023 年度は山口陽一学長代行のもと組織改革の一環として行政職の世代交代が行われた。2024 年度より、岩田三枝子学部長、岡村直樹研究科委員長、齋藤五十三教務部長、篠原基章学生部長と行政職が刷新されたことを併記する。

前学部長（前 F D 委員長） 大和昌平

## 目次

|                                       |    |
|---------------------------------------|----|
| ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会規程・・・・・・・・・・   | 4  |
| 2023 年度 FD 委員会メンバー表、FD 活動一覧・・・・・・・・・・ | 5  |
| 夏期教員研修会(8 月 18 日)・・・・・・・・・・           | 6  |
| 「チーム TCU を目指して！」                      |    |
| 講 師：豊田信行                              |    |
| 第 2 回ファカルティ・フォーラム（3 月 5 日）・・・・・・・・・・  | 36 |
| 「教学マネジメント 2024 年度にむけて」                |    |
| 講 師：齋藤五十三、岩田三枝子、立山剛                   |    |
| 付録・・・・・・・・・・                          | 45 |
| 授業評価                                  |    |
| 学生による授業評価アンケート（2023 年度）実施要領           |    |
| 教員による授業相互評価（2023 年度）評価項目              |    |
| 案内ちらし                                 |    |
| 第 1 回ファカルティ・フォーラム（6 月 20 日）           |    |

# ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会規程

2008年（平成20年）9月9日施行

（目的）

第1条 東京基督教大学は、建学の精神に基づき、教育理念の実現に向け、教育活動の継続的な改善と支援を目的として、ファカルティ・ディベロップメント活動（以下「FD活動」という）を推進するため、ファカルティ・ディベロップメント委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第2条 委員会は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事項を審議し、FD活動を推進するための組織的な取り組みを行う。

- （1）教育研究活動のための調査および支援
- （2）授業内容・方法の改善・向上のための計画・実施
- （3）新任教員研修
- （4）FD活動の点検及び評価
- （5）FD活動報告書の刊行
- （6）FD活動に関する情報の収集と提供
- （7）その他FD活動の目的達成に必要な活動

第3条 （削除）

（委員会の構成員）

第4条 本委員会の構成員は、学務会議の構成員とする

（委員長）

第5条 委員会の委員長は、学務会議の議長とする。

（会議）

第6条 委員会は、適宜会議を開く。

2 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

3 委員会は、委員の過半数をもって成立し、審議事項の決済には、出席委員の過半数の賛成を必要とする。

（事務担当者）

第7条 委員会は、本学におけるFD諸活動を実施するために、事務担当者を置く。

（規程の改廃）

第8条 この規程の改廃は、委員会の提案に基づき、教授会の議を経て学長が行う。

附則 [2008年（平成20年）9月9日制定]

この規程は、2008年（平成20年）9月9日から施行する。

附則 [2012年（平成24年）1月10日改正]

この規程は、2012年（平成24年）4月1日から施行する。

附則 [2015年（平成27年）1月13日改正]

この規程は、2015年（平成27年）1月13日から施行する。

附則 [2016年（平成28年）1月12日改正]

この規程は、2016年（平成28年）1月12日から施行する。

附則 [2020年（令和2年）2月4日改正]

この規程は、2020年（令和2年）2月4日から施行する。

附則 [2021年（令和3年）3月2日改正]

この規程は、2021年（令和3年）4月1日から施行する。

## 2023年度 ファカルティ・ディベロップメント委員会構成員

大和 昌平（委員長）  
 山口 陽一  
 伊藤 明生  
 菊池 実  
 岡村 直樹  
 ランドル ショート  
 岩田 三枝子  
 篠原 基章  
 立山 剛

## 2023年度 FD活動一覧

| 開催日        | FD活動                                              | 講師・発題者                | 場所      | 対象              | 参加者数 |
|------------|---------------------------------------------------|-----------------------|---------|-----------------|------|
| 2023年6月20日 | <b>第1回 Faculty Forum</b><br>紀要合評会                 | 須藤英幸<br>岩田三枝子         | FCCチャペル | 全専任教員<br>博士課程学生 | 18名  |
| 2022年8月18日 | <b>教職員研修会</b><br>「チームTCUを目指して！」                   | 豊田信行                  | FCCチャペル | 全専任教職員          | 37名  |
| 2023年3月5日  | <b>第2回 Faculty Forum</b><br>「教学マネジメント 2024年度にむけて」 | 齋藤五十三<br>岩田三枝子<br>立山剛 | FCCチャペル | 全専任教職員          | 24名  |

# TCUの「これから」に向けて

| 時間          | 内容                    |
|-------------|-----------------------|
| 09:00-09:15 | オープニング                |
| 09:15-11:25 | 講演1 豊田師               |
| 11:25-11:40 | レスポンス1 朝岡理事長          |
| 11:40-12:00 | レスポンス2 学生募集（森田哲也・中南守） |
| 12:00-13:00 | 休憩                    |
| 13:00-14:00 | 講演2 豊田師               |
| 14:00-14:30 | クロージング 朝岡理事長・山崎副理事長   |

## オープニング 賛美・聖書・祈り

朝岡勝 理事長

# 賛美 聖書

## マルコ4章35節

さてその日、夕方になって、イエスは弟子たちに  
『向こう岸へ渡ろう』と言われた。

## 2023年度春学期の振り返り

理事・専任教職員懇談会（5/16）:理事長・学長・副理事長の発表 ➡ レスポンス（7/27）  
臨時理事会（6/27）山口学長辞任承認 ➡ 報告会（7/4）:  
理事会（7/11） ➡ 理事長発の『TCU存続に向けての改革案報告』  
臨時理事会（7/25）次期学長（朝岡勝理事長の兼務）決定

大学全体の組織の強化（第4期中期計画・2023-2024事業計画）  
専任教員退修会（3/31）:豊田信行氏  
学内ヒアリング1-管理職・教員・職員（5/24）  
学内ヒアリング2-教職員（7/5）  
学内ヒアリング3-教職員（7/20）

## 2023年度秋学期から2024年度に向けて

山口学長より・・・

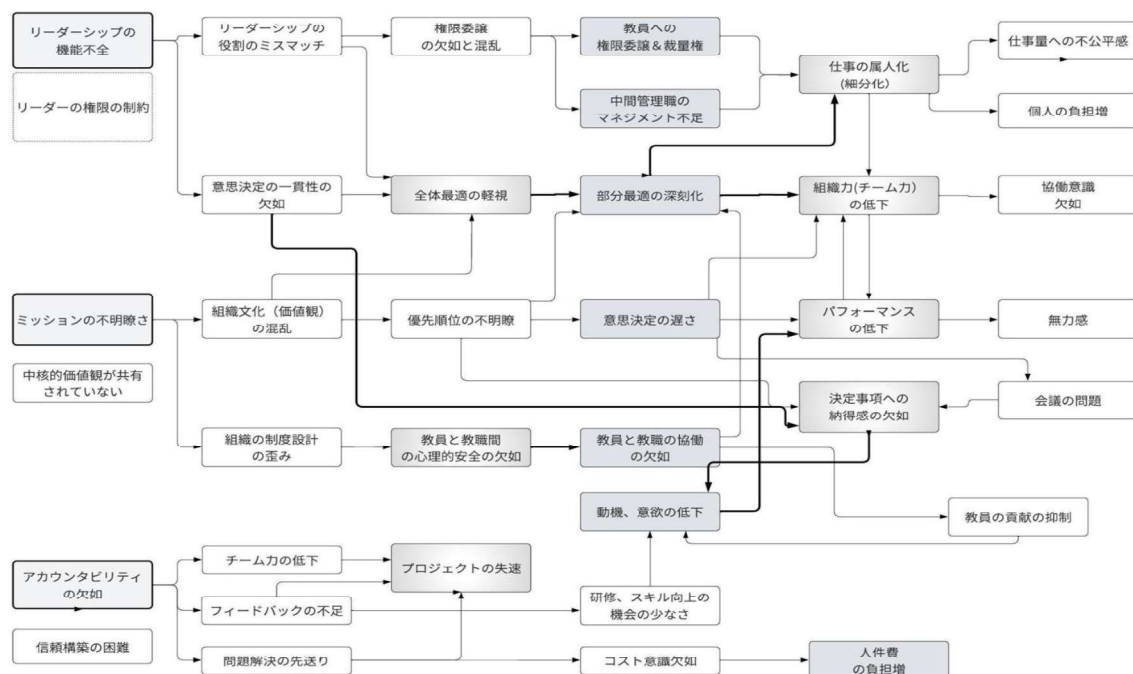
# 講演 1 豊田信行師

# 組織診断結果

TCUの組織的課題とは？

## 問題ロジック・ツリー

組織診断とはヒアリング等を通して組織の「問題点」を探り、それぞれの問題点の相関関係を図式化（問題ロジック・ツリー）したものです。健康診断と同じです。



## 組織面の喫緊の課題

01

リーダーシップの機能不全

権限委譲の欠如

02

ミッションの不明瞭さ

部分最適、仕事の属人化

03

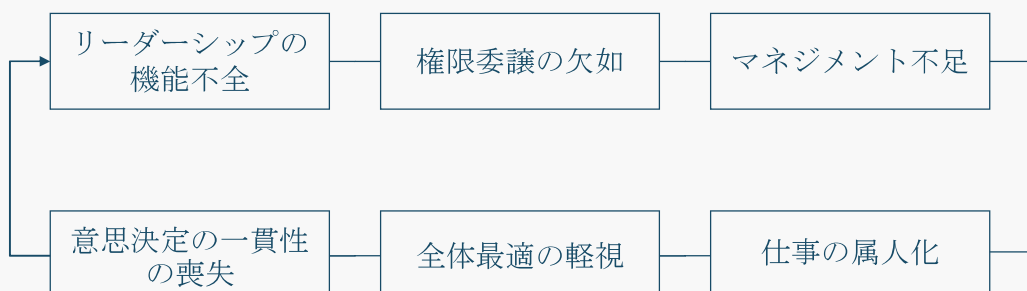
アカウンタビリティの欠如

信頼関係構築の阻害

# 組織運営の失速

モメンタム（勢い）の回復を目指す

## リーダーシップの機能不全



# 01

## リーダーシップの機能不全

リーダーシップが機能不全に陥り、権限委譲が行われていない。また、ミッションに基づいた「一貫性」が失われ、全体最適が軽視され、部分最適が促進される。

仕事が属人化しているにも関わらず、権限委譲が行われていないため、適時に**意思決定**が下せない。

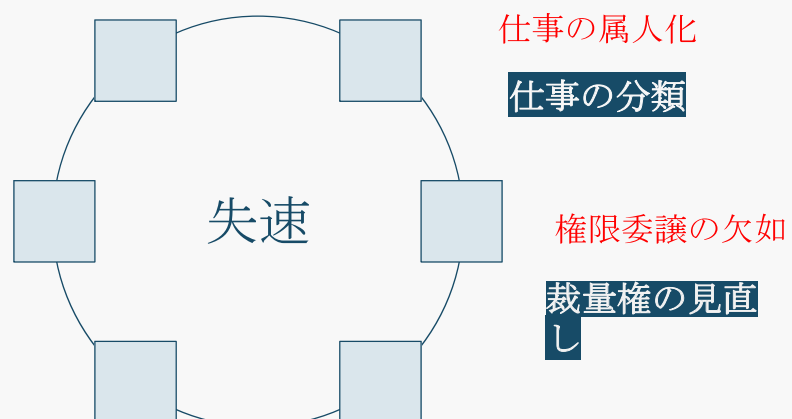
### 権限委譲の欠如と混乱

権限委譲は役割分担ではなく、**権限の分担**です。

TCUの組織は権限がリーダーに集中する傾向があります。そのため、リーダーシップが強権的ではないのに関わらず、結果的に**かなり強いトップダウンの組織**になっています。

**結果、主体性が失われ、受け身になってしまう。**

### プロジェクトが失速する要因



## 仕事の属人化

01

専門性の高い仕事内容

02

仕事量の多さ

03

仕事の囲い込み

02

### ミッションの不明瞭さ

ミッションが不明瞭のため、**中核的価値観**が共有されておらず、適時な意思決定が遅れるだけでなく、一貫性を失う傾向がある。

ミッションの不明瞭さはミッションの属人化の要因となっている。組織の構成員（職員、教職員）が**独自の使命感**を抱いている。

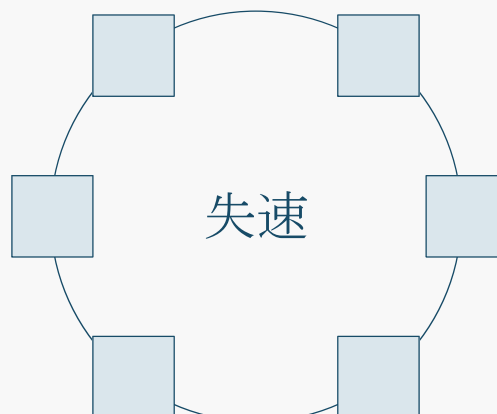
## プロジェクトが失速する要因

ミッションの属人化

ミッションの共有

意思決定の一貫性の喪失

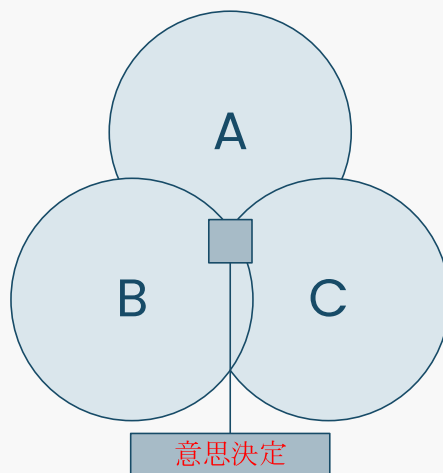
中核的価値観の決定



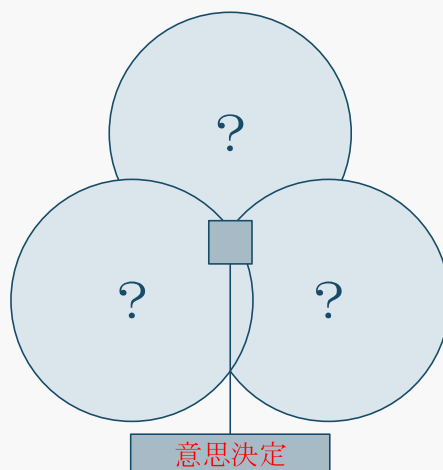
仕事の属人化

進捗状況が共有されていない

## 中核的価値観に基づく意思決定



## TCUの意思決定の難しさ

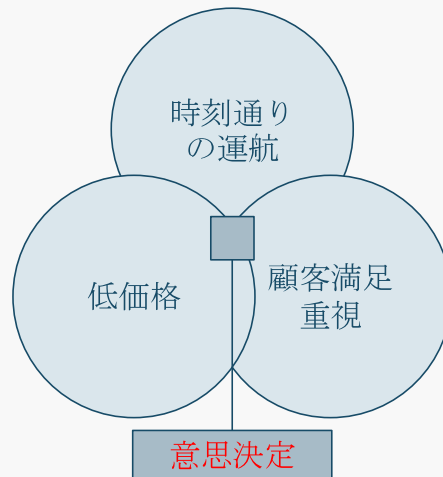


## グループ・ワーク

10分



## サウス・ウエスト航空の中核的価値観



## サウス・ウエスト航空の差別化戦略



チケットの変更、キャンセル  
料無料



自由座席



キャンセルになったフライト  
のマイル・ポイントは付加さ  
れる。



預け荷物2つまで  
無料

## サウス・ウエスト航空 Mission & Vision Statement

The Southwest Airlines mission statement is "**Dedication** to the highest quality of customer service delivered with a sense of warmth, friendliness, individual pride, and company spirit." And the Southwest Airlines vision statement is "to become the world's most loved, most flown, and most profitable airline."

サウスウエスト航空のミッション・ステートメントは、"温かさ、親しみやすさ、個人の誇り、そして愛社精神をもってお届けする最高品質のカスタマーサービスへの**献身**"である。

そして、サウスウエスト航空のビジョン・ステートメントは、"世界で最も愛され、最も利用され、最も収益性の高い航空会社になること"である。

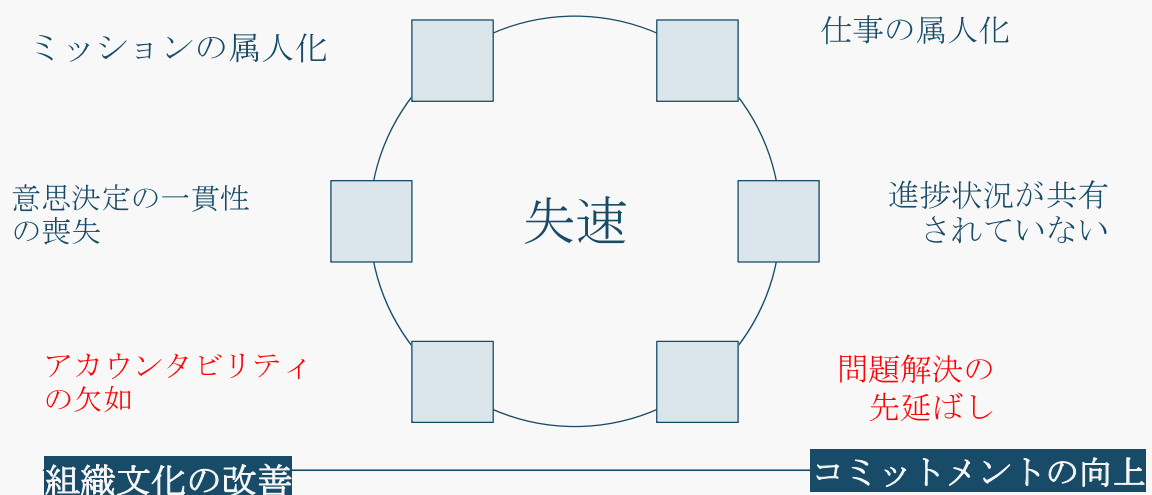
### 03

### アカウンタビリティの欠如

アカウンタビリティの欠如はチームワークの土台となる信頼関係の構築を困難にします。また、問題解決が先延ばされる傾向が生まれ、「結果責任」が曖昧になります。

信頼関係の構築が困難になるため、意見の対決を避ける傾向が強くなり、**結果責任**が不問にされる可能性が高くなる。

### プロジェクトが失速する要因



---

# Any questions?

---



## レスポンス 1 朝岡理事長

### ①第一次神プロ（2015年～）

- ・ 2035年度に学生数290名相当で資金収支均衡を達成
- ・ 期末保有資金額20億を切らない

### ②第二次神プロ（2021年～）

- ・ 2027年度に学生数230名相当で資金収支均衡を達成
- ・ 期末保有資金額10億を切らない

## 1. 「神の国に仕えるプロジェクト」の総括

(2023年5月16日理事・専任教職員懇談会発題参照)

### ★成果

教職協働の道筋の整備  
大学改革コンセプトに基づく学科再編

### ★課題

課題抽出に留まり、改善策実現が未達  
入学者激減と資金流出の加速・・・「神プロ」モデルの破綻  
責任所在の不明瞭と総括の不十分  
新規経営モデル構築の遅延

## 2. 次なる改革へ

“TCUの神学教育を「Stand in the Gap 破れ口に  
キリストの平和を」をコンセプトにして全面的に  
展開すべく、第二次「神プロ」に変わる改革プロ  
ジェクトをスタートさせ、第四期中期計画を更新  
し、財政基盤の確立に向けて全学挙げての体制を  
組み、世代交代の促進と大幅なコストカットを含  
むスピーディーな改革実現に取り組みます。”

(2023年7月11日「学長候補者になるにあたっての所信」)

## 2. 次なる改革へ

- ・経営責任（理事会）と運営責任（大学）のリーダーシップ一元化により、責任所在を明確にする。
- ・2024年度、2025年度の二年が正念場。特に24年度の1年次入学者が決定的に重要。→今年度の学生募集が鍵！
- ・2027年度に学生数202名（定員）相当で資金収支均衡を実現するモデルをつくる
- ・教職員全員がチームとなって働き、主からの期待と委任に応える大学としてさらに前進する。

### 3. 新たなプロジェクトスタート

大学全体の組織文化と構造改革  
そのコアの教育内容の改革



### 3. 大学改革を実現するために

#### ①まずは緊急対応から・・・今日のメインテーマ

#### ②組織文化・組織構造改革への取り組み

(リーダー：山崎、森田、高橋信、ショート、森優)

新たなTCUを建て上げるために、すべての教職員の賜物、個性が有機的に結び合い、言葉と意思と熱意が流れ、全体が一つのチームとなって働き、責任を果たし、結果を出す組織文化の形成

#### ③教育内容充実への取り組み

(リーダー：岩田三、齋藤、森田、村山、・・・)

聖書的世界観に基づき、包括的な神学的思考と実践を身に着け、破れ口にキリストの平和を実現する、福音を肌で感じさせるキリストのしもべたちの育成に向け、学科名・専攻見直しを含めた教育課程の再デザイン

### 4. “三つの責任”を果たす組織へ (5月16日発題参照)

#### ★説明責任・・・ことばを尽くす

理事会・大学運営会議・教授会などでの重要な決定事項、継続案件の進捗状況、意見や提案の募集、達成された案件の報告と感謝、祈りの課題などなど、ウェブ、対面、教職員懇談会、職員朝会などの機会を用い、ことばを尽くして説明責任を果たします。

#### ★応答責任・・・誠実に答える

新たな方策が実行に移される時に生まれる問いや新たな提案、ステークホルダーから寄せられる意見や諸教会からの声に謙虚に耳を傾け、それら一つ一つに誠実に説明と応答を尽くすことによって応答責任を果たします。

#### ★結果責任・・・成果を出し、結果を引き受ける

今後の取り組みによってもたらされる結果に対して、その責任を引き受けます。皆さんには、失敗を恐れず大胆にチャレンジしていただきたいと願っています。

## 改革は今日からスタート！

最初の一取り組みとして・・・

### ★次年度入学者獲得へ全学挙げての学生募集活動を！

- ・「広報渉外室」を「企画広報室」に改称  
(室長：森田 課長：中南、朝岡識、田中牧、神)
- ・森田先生を統括責任者とした学生募集チームのスタート

## 学生募集

森田哲也先生  
中南守職員

## 学生募集の緊急対応 2023年8月～11月

広報企画室 森田哲也・中南守

# 学生募集の緊急対応計画 アウトライン

1. ゴールとそこまでの道筋 2024年4月に私たちが見たい風景
2. 11月までの達成目標 2023年11月までに達成したいこと
3. 学生募集活動 誰が、いつまでに、何をするのか？
4. 学生募集プロジェクト 全教職員で何をするのか？

## 2024年春学期入学式で 私たちが見たい風景のために

### 具体的活動

- 教会訪問
- 受験者層との接触
- メディア戦略 HP/SNS

### 達成したい目標

出願者20名！  
(11/8迄)

### 目指すゴール

「2024年度春学期入学式会場が、1年次入学者（定員33名）とその家族、教会関係者で満たされている風景を、教職員と在校生が見て共に喜んでいる。」

# 学生募集の緊急対応計画 アウトライン

1. ゴールとそこまでの道筋 2024年4月に私たちが見たい風景
2. 11月までの達成目標 2023年11月までに達成したいこと
3. 学生募集活動 誰が、いつまでに、何をするのか？
4. 学生募集プロジェクト 全教職員で何をするのか？

「11/8までに出席者20名」を達成するためにできること

**Step 0 : 600人の高校生に接触（教会/集会/日本伝道会議 9/19-22）**

- 150の教会をTCU地区支援会役員の紹介で教員が訪問（夏のキャンプでは約300人に接触）
- 100人の新規LINE登録者獲得（約250：現状）

**Step 1: 200人がWeb資料請求（4月～8月時点で資料請求数は44名）**

**Step 2: 80人がOCに参加（OC参加者の出席率20%）**

- 30人 9/22～23（金・土）一泊型オープンキャンパス
- 50人 10/9（月・祝）シオン祭オープンキャンパス

**Step3 出席者20名**

## 学生募集の緊急対応計画 アウトライン

1. ゴールとそこまでの道筋 2024年4月に私たちが見たい風景
2. 11月までの達成目標 2023年11月までに達成したいこと
3. 学生募集活動 誰が、いつまでに、何をするのか？
4. 学生募集プロジェクト 全教職員で何をするのか？

## 【TCU支援会＋教会訪問】

- ▶ 8/31迄 地区支援会役員による地域教会の訪問協力者選定
- ▶ 9/12 全国支援会 中間会議（約30人）
  - ▶ 各役員へ「緊急の具体的行動」のお願い
  - ▶ 高校生がいる教会関係者に連絡（Zoom/訪問）：数値目標設定（9月中～末）
  - ▶ OC・uniTed 2023に高校生へ参加アピール
- ▶ 教員との教会訪問の調整
  - ▶ 9/30迄 地区支援会役員と教員が訪問する教会リストアップ
  - ▶ 9/30-11/17 全国の地区支援会役員の教会・近隣教会訪問
  - ▶ 9/16-18 北海道地区支援会役員との協力による教会訪問等（森田）
  - ▶ 9/17 九州地区支援会役員との協力による教会訪問等（齋藤）
  - ▶ 沖縄訪問（バビリエ）
- ▶ 11/5 TCUdayを中心に全教職員、学生による出席教会、実習教会でのアピール

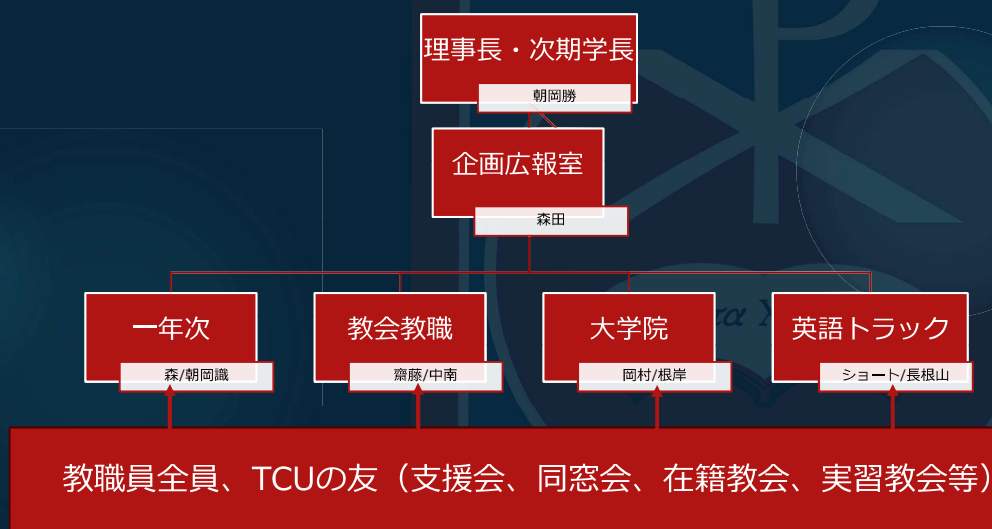
## 【教員のネットワーク+教会訪問】

- ▶ 8/31迄 訪問先リストアップ&訪問計画作成
  - ▶ 徐有珍：韓国にある日本人教会
  - ▶ 大和・須藤：関西地区
  - ▶ 岩田三：改革派教会
  - ▶ 岡村：hi-b.o.定期集会訪問戦略（インターン学生）
  - ▶ 篠原：群馬・栃木地区
  - ▶ 菊池・齋藤：同盟教団
  - ▶ ショート：EAI生を連れて複数の教会を訪問する
  - ▶ その他の教員も関連する教会や集会の情報をリストアップ

## 学生募集の緊急対応計画 アウトライン

1. ゴールとそこまでの道筋 2024年4月に私たちが見たい風景
2. 11月までの達成目標 2023年11月までに達成したいこと
3. 学生募集活動 誰が、いつまでに、何をするのか？
4. 学生募集プロジェクト 全教職員で何をするのか？

## 学生募集を全教職員で推進しましょう！



# 皆さんと一緒にやって行きましょう (9月~11月)

Join a Recruiting Team for Sept-Nov!

1. 希望する学生募集チーム加わる  
Pick a recruiting team to join.
2. 定例スタンディングミーティングに毎週参加する。  
Join a standing meeting each week.
3. 学生募集活動の進捗を報告する。  
Report together about the past week's recruiting activities.
4. 学生募集のためのアイデアを共有する。  
Share ideas for student recruiting.
5. 次の週までにすることを決める。  
Decide tasks for the following week.

## 学生募集チームの希望

## Recruiting Team Preferences

- 氏名・Name \_\_\_\_\_
- あなたが加わりたい学生募集のチームにチェックしてください。Indicate your first and second choice of teams by checking boxes below.
- 第1候補 / First Choice
  - ☐ 総合神学科1年次 / 1st Years (J-Track)
  - ☐ 総合神学科3年次 教会教職専攻 / Ministry Program
  - ☐ 大学院 / Graduate School
  - ☐ 英語トラック / English Track
- 第2候補 / Second Choice
  - ☐ 総合神学科1年次 / 1st Years (J-Track)
  - ☐ 総合神学科3年次 教会教職専攻 / Ministry Program
  - ☐ 大学院 / Graduate School
  - ☐ 英語トラック / English Track

▶ コメント・提案  
Comment, Suggestion,  
Question

## 2024年春学期入学式で 私たちが見たい風景のために

### 具体的活動

- 教会訪問
- 受験者層との接触
- メディア戦略 HP/SNS

### 達成したい目標

出願者20名！  
(11/8迄)

### 目指すゴール

「2024年度春学期入学式会場が、1年次入学者（定員33名）とその家族、教会関係者で満たされている風景を、教職員と在校生が見て共に喜んでいる。」

# 昼食 13時15分から再開

## 講演 2 豊田信行師

**Accountability**

## accountabilityの一般的な定義

### 「説明責任・説明義務」

企業・行政などが自らの活動について公衆や利害関係者に**報告・説明する社会的責務**のこと。

## 決算報告に対する日本的な考え方

会計（Accounting）とは、端的に言えば「会社に関連する取引・事象を**数値化して記録すること**」を意味します。

（Money Forward（会計ソフト会社））

## accountabilityの誤解

### アカウンタビリティ ≠ 説明責任

「accounting」（会計）と「responsibility」（責任）の2つの単語を組み合わせた造語です。

## Accountability in the Bible

2列王記12:15

また、工事する者に支払うように金を渡した人々が  
**精算**を求められることはなかった。彼らが**忠実**に働  
いていたからである。

Accounting + Responsibility = **Accountability**

## Accountabilityの聖書的定義

アカウントビリティ = **成果責任**

## AccountabilityとResponsibilityの関係性

**成果**

Responsibility (所在責任)

## AccountabilityとResponsibilityの関係性



## Accountability in the Bible

「タラントの譬え」マタイ 25 章

25:14 天の御国は、旅に出るにあたり、自分のしもべたちを呼んで財産を預ける人のようです。

25:15 彼はそれぞれその能力に応じて、一人には五タラント、一人には二タラント、もう一人には一タラントを渡して旅に出かけた。するとすぐに、

## Accountability in the Bible

25:16 五タラント預かった者は出て行って、それで商売をし、ほかに五タラントをもうけた。

25:17 同じように、二タラント預かった者もほかに二タラントをもうけた。

25:18 一方、一タラント預かった者は出て行って地面に穴を掘り、主人の金を隠した。

25:19 さて、かなり時がたってから、しもべたちの主人が帰って来て彼らと清算をした。

## Accountability in the Bible

25:20 すると、五タラント預かった者が進み出て、もう五タラントを差し出して言った。『ご主人様。私に五タラント預けてくださいましたが、ご覧ください、私はほかに五タラントをもうけました。』  
25:21 主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。おまえはわずかな物に忠実だったから、多くの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』

## Accountability in the Bible

25:22 ニタラントの者も進み出て言った。『ご主人様。私にニタラント預けてくださいましたが、ご覧ください、ほかにニタラントをもうけました。』  
25:23 主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。おまえはわずかな物に忠実だったから、多くの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』

## Accountability in the Bible

25:24 一タラント預かっていた者も進み出て言った。『ご主人様。あなた様は時かなかったところから刈り取り、散らさなかったところからかき集める、厳しい方だと分かっていました。』  
25:25 それで私は怖くなり、出て行って、あなた様の一タラントを地の中に隠しておきました。ご覧ください、これがあなた様の物です。』

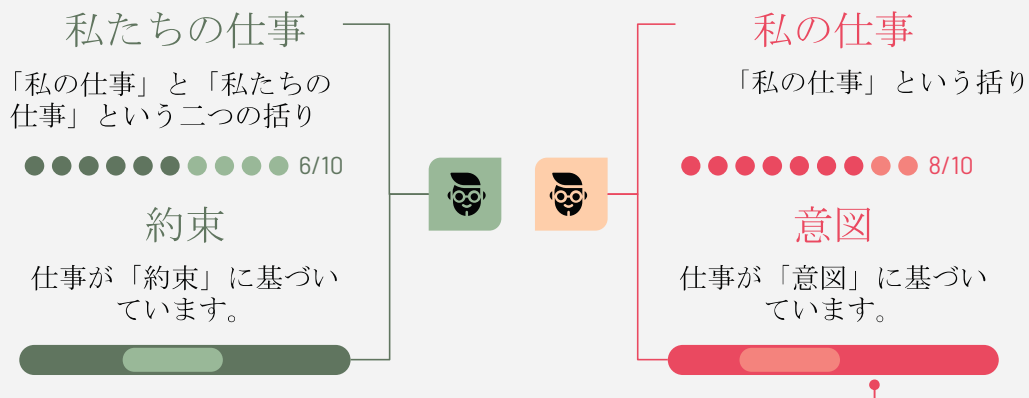
## Accountability in the Bible

25:26 しかし、主人は彼に答えた。『悪い、怠け者のしもべだ。私が蒔かなかったところから刈り取り、散らさなかったところからかき集めると分かっていたというのか。』

25:27 それなら、**おまえは私の金を銀行に預けておくべきだった**。そうすれば、私が帰って来たとき、私の物を**利息**とともに返してもらえたのに。

25:28 だから、そのタラントを彼から取り上げて、十タラント持っている者に与えよ。

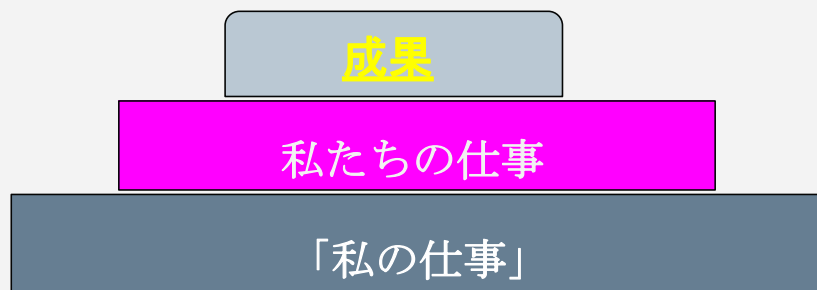
## Accountability & Responsibility



成果

「私の仕事」

## AccountabilityとResponsibilityの関係性



## 約束

約束がアカウンタビリティの核心です。

## 約束を尊ぶ組織文化の醸成

健全な組織の特徴は、「約束を尊ぶ組織文化」です。

キリスト教は「**約束の神、契約の神**」を崇拝し、生き方の模範とする。教会、キリスト教系教育機関、NPO組織等々は、「約束の神、契約の神」の性質を組織文化として醸成することが責務。

## 約束を尊ぶ組織文化の醸成

創 28:15

見よ。わたしはあなたとともにいて、あなたがどこへ行っても、あなたを守り、あなたをこの地に連れ帰る。**わたしは、あなたに約束したことを成し遂げるまで、決してあなたを捨てない。」**

## 約束を尊ぶ組織文化の醸成

### 約束 OR 意図

「**約束すること**」と「**意図すること**」の違いは信頼関係の構築において決定的な相違を生みます。

## 信頼の構築

### 約束

今日、8時に帰ります。

明日、商品が届きます。

明日の朝、必ず起こします。

### 意図

今日、**できるだけ**早く帰ります。

明日中に商品をお届け**努力**をします。

明日の朝、**覚えていたら**起こします。

# Can I **Count on** You ?

You Can Count on Me.

You Can not Count on Me.

## **Accountability**と**Responsibility**の関係性

成果

「意図」

## **Accountability**と**Responsibility**の関係性

成果

「約束」

「意図」

## コミットメント

**約束**は守られるか、破られるかしきありません。  
プロセスは評価されず、**成果責任**が問われます

**意図**は**プロセス**が評価され、成果責任は不問にされる傾向があります。

約束にはコミットメントが生じますが、意図には必ずしもコミットメントは生じません。

## Accountabilityとエンパワーメント

**エンパワーメント**（権限移譲）の土台は意図ではなく、**約束に基づく信頼関係**です。この信頼関係は約束を守った実績（積み重ね）によって構築されます。

## Accountabilityの欠落原因

「期待されていることが不明瞭」

- ① **期待を明確にする。**
- ② 定期的な確認作業
- ③ 成果を出すための支援
- ④ フィードバック

期待を明確にする

SMART



Specific

具体的



Relevant

ミッション、  
ビジョンとの整合性



Measurable

測定可能



Time-based

時間的制約



Achievable

達成可能（現実的）

Any Questions ?

クロージング  
TCUの「これから」に向

朝岡勝 理事長

★TCUが「神学部」単科の大学として存在する意味と使命は何か？

★そもそもの課題として・・・

TCUの「神学」とは何か

TCUの「キリスト教世界観」とは何か

TCUの「リベラルアーツ教育」とは何か

TCUの「全人格的教育」とは何か

を考えていきたい。

丸山忠孝「神学大学の理念」、『キリストと世界』第1号、1991年

ステパノ・フランクリン『キリスト教世界観とリベラルアーツ 日本におけるキリスト教大学のアイデンティティ』豊川慎訳、1996年

★TCUの神学の土台となる「のみ」と「すべて」

「聖書のみ」と「聖書のすべて」

「キリストのみ」と「キリストがすべて」

★教育目標としての

「STAND IN THE GAP 破れ口にキリストの平和を」

破れ口を見出し、  
破れ口に身を置き、  
破れ口に橋を架けるための  
TCUでしかできない神学教育を！

# 今日のまとめ

## 山崎副理事長

- 1 新しいスタート
  - ①理事長・学長一本化の緊急体制
  - ②2025年度まで（豊田先生のコンサル・山崎副理事長）
- 2 2023秋学期の緊急対応
  - ①学生募集
  - ②コストカット（後で小町副事務局長がアナウンス）
- 3 取組は全教職員で
  - ①改革チーム、学生募集チームは毎週進捗を発信
  - ②自分の業務+ $\alpha$ となるが、毎日・毎週の業務の中に取り組を組み込み、コミットしてもらいたい
- 4 ・次回、必ずPart 3（12月頃）を行います。

## 事務局からのアナウンス と閉会のお祈り 小町副事務局長

1) 本部棟事務局の配置換え（7月24日実施）

- ・ 学生メールボックス側から、教務部、学生部、理事長室、広報渉外室、総務部・事務局中央部に作業机を設置

- ・ 事務局内の書類等の整理、長期保管物などは極力事務局外に移し、事務局内にスペースを確保

2) 本部棟、福祉棟の部屋の整理

- ・ 本部棟、福祉棟の各部屋について、管轄部署を定めた

3) 残業の削減

- ・ 従来、本人が任意に実施できていた残業について、「超過勤務とは、本人の申請に基づいて所属長が許可した業務又は所属長の指示に基づいて本人が執務した業務をいう」（割増賃金の支給細則第2条）との基本に立ち返り、所属長（課長）への事前確認を求めることとする。（8月から実施）

残業手当として、年間900万円を超える支出が発生している（2022年度実績）。この支出を減らしていくことを目指す（目標としては半減）。残業代を減らすばかりでなく、業務を減らすこともあわせて検討

- ・ 行事等のため、夜間勤務を行う場合のシフト勤務についても今後検討

4) 勤務時間外のメールチェック

- ・ 勤務時間外に、メール、サイボウズ、teams等の着信があった場合、それをチェックしたり、返信することは必須でないことを確認した。

- ・ 特に学生対応部署においては、夜間勤務が増加する傾向があるため、それへの対策も今後検討

5) 本部棟事務局のエアコン等の稼働時間について

- ・ 本部棟事務局のエアコンの稼働時間は、原則、8時～17時30分とする。稼働時間後は事務局エアコンをOFFする。（必要な場合は会議室等で執務する）

# 教学マネジメント進捗

第2回ファカルティー・フォーラム資料

2024年3月5日

## 1. 教学マネジメント体制について

2023年度から学務会議と専攻等代表者会議を以下のとおり位置付けた。

○学務会議：教育・学生支援活動の評価組織

○専攻等代表者会議：教職員・学生が記入する各評価書、学生との意見交換から浮かび上がった課題の具体的な改善案を検討し、その進捗を学務会議に報告する組織

検討テーマは多岐にわたるため、さらに検討テーマ別にワーキンググループをつくり、各ワーキンググループの進捗を確認しつつ、専攻等代表者会議で全体の調整を行った。2023年度は、この体制が機能し、3以降に示すように各検討テーマについて課題の検討・改善を実施することができた。特に学期に1回実施した学生会との意見交換では、回を重ねる度に各検討テーマについて率直な学生の意見を聴き取ることができた。学生が普段、授業や大学生活で感じている課題を理解し、学生のニーズに沿う改善策を検討するために学生会との意見交換は非常に有益であった。

2024年度は、会議の回数を減らし、教学マネジメントの効率化を図るため、学科長がワーキンググループを取りまとめ（24年度のワーキンググループは次頁の表を参照）、学務会議に報告するプロセスで教学マネジメントを運用する予定である（専攻等代表者会議は全体の調整が必要な場合のみ招集される。）。また、引き続き学生会との連携を深め、教職学協働で大学の教育・学生支援活動の改善に取り組む予定である。

また、学生のサポートに関わる検討課題については、学生に直接関わる教務部、学生部、寮主事から構成される修学支援委員会に一本化し、具体的な改善策を検討してきた。その結果、2023年度は障がい学生を対象としたピアサポート制度を開始することができた。日々生じる学生の課題に教職員だけで対応することは現実的ではないため、今後もピアサポーターと連携しつつ、学生のニーズにきめ細やかに対応できる仕組みを整えていく必要がある。

## 2024 年度検討テーマ別ワーキンググループ

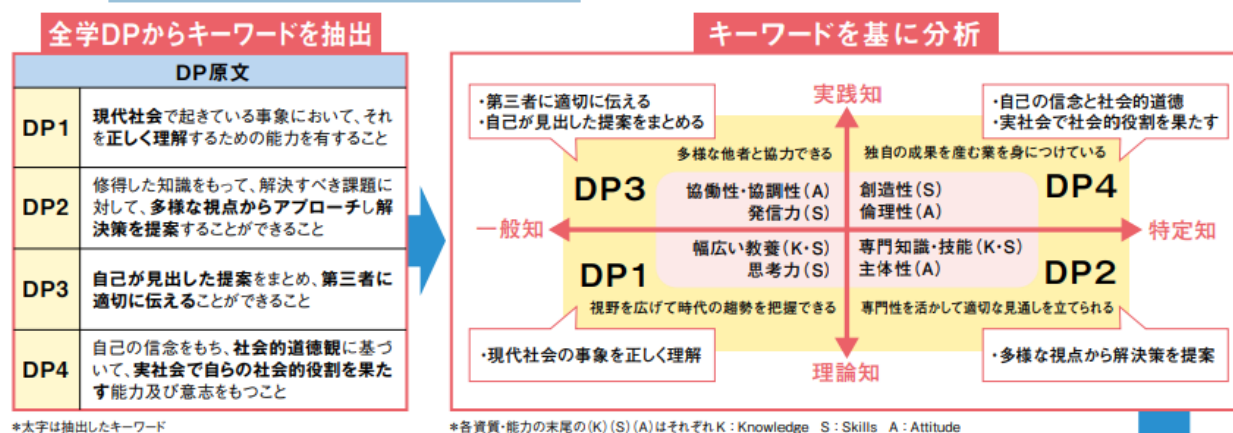
| 検討テーマ                       | 担当部署        | 担当者                |
|-----------------------------|-------------|--------------------|
| 履修、授業、カリキュラム<br>オフィスアワー(日英) | 教務部         | 齋藤、村山、森優、立山        |
| 入学前教育(日)                    | 教務部         | 齋藤、森恵、立山           |
| 入学前教育(英)                    | 教務部         | サイツマ、バビリエ、森優、長根山   |
| 実習科目                        | 教務部         | 森田、井上、徐、辻中、長根山     |
| IT支援                        | 教務部         | 立山、林               |
| チャペル                        | 教務部<br>(暫定) | 齋藤、森優、姜            |
| 寮教育/生活                      | 学生部         | 篠原、辻中、マクドウェル、菅野、姜  |
| オリエンテーション(日)                | 学生部         | 篠原、姜、立山            |
| オリエンテーション(英)                | 学生部         | バビリエ、マクドウェル、石原、長根山 |
| 教会実習(日)                     | 学生部         | 篠原、辻中、マクドウェル、姜     |
| 教会実習(英)                     | 学生部         | サイツマ、石原            |
| 課外活動(委員会・サークル)              | 学生部         | 篠原、辻中、マクドウェル、姜     |
| キャリア支援(日)                   | 学生部         | 辻中、石原              |
| キャリア支援(英)                   | 学生部         | 辻中、石原、バビリエ         |
| 学生相談室                       | 学生部         | 杉谷、花野井、姜           |
| 健康相談室                       | 学生部         | 篠原、マクドウェル綾子、菅野、石原  |
| 奨学金                         | 学生部         | 奨学金委員会             |
| 担任制・コイノニア・ポートフォリオ           | 学科長         | 森恵、篠原、バビリエ、姜、立山    |
| 日英共同体、日英合同クラス               | 学科長         | 森恵、マクドウェル、バビリエ、柳沢  |
| 学修支援、学生支援、障がい学生支援           | 学科長         | 修学支援委員会            |
| 授業評価アンケート                   | FD委員会       | 岩田、村山、立山           |
| ハラスメント防止                    | 総務部         | ハラスメント防止委員会        |

## 2. 学修成果の測定と評価方法について

第4期認証評価（2025～2031年度）の改定方針では、学修成果を基軸に据えた内部質保証の重視とその実質性を問う評価が求められる。そのため、他大学の取り組み事例を参考に、以下の5点について学務会議で検討を開始した。

- ① DPを測定可能な能力（知識、スキル、態度）を用いて定義すること。
- ② ①で定義したDPに基づく各能力の評価ルーブリックを作成し、学生面談の際の評価指標とすること。
- ③ DP別修得単位数、DP別GPA平均等、DPと成績を分析することで直接評価指標を定めること。
- ④ ①で定義したDPに基づく各能力をPROGの評価項目と関連付けること。
- ⑤ DPごとの達成度とTCUポートフォリオの設問項目（成長実感、満足度等）との関係を分析すること。

【図表14】DPを測定可能な資質・能力に分解するまで（京都産業大学の例）



### 3. 教務部関連の検討テーマ

**改善**：2023 年度に改善した項目

**予定**：検討・調整は終了し、2024 年度に実施予定の項目

**継続**：2024 年度も継続して審議、調整が必要な項目

| 検討テーマ       | 進捗 | 進捗概要                                                                                                                                    |
|-------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 履修          | 改善 | 履修指導期間、履修登録・変更期間、履修取消・停止期間等を記載した履修カレンダー（年間）を学生に配布した。                                                                                    |
|             | 改善 | 履修ガイダンスの出席率を高めるために冬学期中（2/16）に実施した。実習科目、卒業研究のガイダンスは春のオリエンテーションで実施する。                                                                     |
|             | 改善 | インディペンデントスタディの仕組みを明確にし学修の手引に記載した。                                                                                                       |
|             | 予定 | ピアサポーター主催の履修相談会を実施する。                                                                                                                   |
| 授業          | 改善 | 試験・レポートのフィードバック方針を作成し教員ハンドブックに記載した。                                                                                                     |
|             | 改善 | 授業中の学生対応について教員ハンドブックに記載した。                                                                                                              |
|             | 改善 | TCUオンラインでの出欠の記録について教員ハンドブックに記載した。                                                                                                       |
|             | 改善 | グレードインフレーションの原因の一つである再試験・レポート制度を廃止した。                                                                                                   |
|             | 改善 | 日本語コースからGreat Booksを履修できるよう履修登録システムを修正する。                                                                                               |
|             | 予定 | 日本語トラック生の学修の手引にGreat Books推奨文を記載する。                                                                                                     |
| カリキュラム      | 改善 | 学生と授業・カリキュラムについて意見交換を行う仕組みとして、学期に1回学生会と意見交換を行った。                                                                                        |
|             | 改善 | TCUスタンダードの内容をアカデミック・スキルズ、共生、キリスト教世界観3つのテーマに分け、内容の一貫性を高めた。                                                                               |
|             | 改善 | 学生の希望が多かった学びの内容の一つである「超教派」「カルト」「LGBTQ」についてTCUスタンダードの1コマで提供する。                                                                           |
|             | 継続 | カリキュラムマップの見直し<br>学生がカリキュラムを体系的に理解し、個々の関心や目標に応じた履修を助けるカリキュラムマップを作成する。<br>教職員がカリキュラムを体系的に把握し、各専攻の科目数、提供分野、提供時期が適切か等の検討に資するカリキュラムマップを作成する。 |
|             | 継続 | 提供しているリベラルアーツ教育科目の分野、科目数は適切か検討する。                                                                                                       |
|             | 継続 | 時間割作成に関する検討課題を整理する。                                                                                                                     |
| オフィスアワー（日英） | 改善 | TCUスタンダードでオフィスアワーに参加する課題を実施した。                                                                                                          |
|             | 予定 | TCUポータルにあるオフィスアワーのページを整備する。                                                                                                             |
|             | 継続 | オフィスアワー活性化のための実施可能な企画案を検討する。                                                                                                            |
| 入学前教育（日）    | 予定 | 入学前教育や履修ガイダンスで、新入生が在学学生に相談できる時間を提供する。                                                                                                   |
| 入学前教育（英）    | 継続 | 英語トラックの入学前教育の内容、実施方法について検討する。                                                                                                           |
| 実習科目        | 改善 | 実習科目と実習先の関係を明示した実習先リストを作成した。                                                                                                            |
|             | 改善 | 実習先に学生の受け入れについて確認するための共通フォーマットを作成した。                                                                                                    |
|             | 改善 | 学生援助金の支給金額を統一し、教務部で予算化した。                                                                                                               |
|             | 改善 | TCUポータルに実習科目の資料をダウンロードできるページを作成した。                                                                                                      |
|             | 継続 | 学生援助金を継続するか検討する。                                                                                                                        |
| チャペル        | 改善 | 通学生のチャペルへの参加方針を学生ハンドブックに記載する。                                                                                                           |
|             | 予定 | 留学生がメッセージ通訳を聞く方法を、無線からzoomに変更する。                                                                                                        |
|             | 継続 | メッセージ、奏楽等に関して学生から出された意見について検討する。                                                                                                        |

#### 4. 学生部関連の検討テーマ

| 検討テーマ            | 進捗 | 進捗概要                                                         |
|------------------|----|--------------------------------------------------------------|
| オリエンテーション<br>(日) | 改善 | オリエンテーションで扱う内容を精査しプログラムを作成した。                                |
|                  | 予定 | ウェルカムタイムは学生会主導で実施する。                                         |
|                  | 予定 | 専攻別のキックオフとして、専攻別ウェルカムランチを実施する。                               |
|                  | 予定 | 寮オリエンテーションは、入学前（zoom）、入学後（春OT）実施する。                          |
|                  | 継続 | 動画コンテンツの活用を含めたプログラム設計を検討する。                                  |
| オリエンテーション<br>(英) | 継続 | 英語トラックの入学前教育との連動を意識して検討する。                                   |
| 教会実習（日英）         | 改善 | 学生部と担任の役割分担を明確にし、教員ハンドブックに記載した。                              |
|                  | 予定 | 教会実習の心構え、周知事項（ハラスメント含む）について新入生はTCUスタンダード、在學生はオリエンテーションで確認する。 |
|                  | 予定 | 教会実習について分かち合う時間をコイノニアでもつ。                                    |
| 課外活動             | 継続 | 委員会は、プログラムの見直し、教職員との連携等、学生数の規模に見合った運営を検討する。                  |
| キャリア支援<br>(日)    | 予定 | 進路について分かち合う時間をコイノニアでもつ。                                      |
|                  | 継続 | 一般企業への就職の選択肢が広がる取り組みについて検討する。                                |
|                  | 継続 | 2年次以降のキャリア教育科目の提供を検討する。                                      |
| キャリア支援<br>(英)    | 改善 | 日本での職業選択等、英語トラック生に対するキャリア支援を6月に実施した。                         |
|                  | 予定 | 進路について分かち合う時間をコイノニアでもつ。                                      |
|                  | 継続 | 英語トラックの実習（キャリア）の内容を検討する。                                     |

#### 5. 修学支援委員会

| 検討テーマ | 進捗 | 進捗概要                             |
|-------|----|----------------------------------|
| 学生支援  | 改善 | 学生の困りごとを把握するために困りごと調査を実施した。      |
|       | 改善 | 秋学期より障がい学生支援を中心としたピアサポート制度を開始した。 |
|       | 予定 | 全学生を対象したピアサポートによる学習支援を実施する。      |
|       | 継続 | RA等ピアサポート制度の仕組みを一元化する。           |

#### 6. 学科長関連

| 検討テーマ   | 進捗 | 進捗概要                                    |
|---------|----|-----------------------------------------|
| 担任制     | 予定 | 担任制の役割について新入生はTCUスタンダード、在學生はOTで確認する。    |
|         | 予定 | 学期の振り返りの時間をコイノニアでもつ。                    |
| コイノニア   | 改善 | コイノニアで扱うプログラムについて、学生・教員ハンドブックに記載する。     |
|         | 予定 | コイノニアの意義について新入生はTCUスタンダード、在學生はOTで確認する。  |
|         | 予定 | 祈禱部主催で合同コイノニアのプログラムを実施する。               |
| ポートフォリオ | 継続 | 学生自己評価書の文言等改善すべき項目を整理し修正する。             |
|         | 継続 | 教員ポートフォリオの文言等改善すべき項目を整理し修正する。           |
| 日英共同体   | 継続 | 異文化交流を活性化するための実施可能な企画案を学生会と検討する。        |
|         | 継続 | 英語トラック生を対象とした大学生活アンケートの内容を学生会と検討する。     |
| 日英合同クラス | 改善 | TCUスタンダード、多読、Great Books等の科目で合同授業を実施した。 |

## 7. FD 委員会

| 検討テーマ | 進捗 | 進捗概要                                |
|-------|----|-------------------------------------|
| 授業評価  | 改善 | 24年度の教員相互評価書の設問を修正した。               |
|       | 予定 | 授業評価アンケートは6週目以降に繰り返し回答できるように設定する。   |
|       | 予定 | 授業評価アンケートの分析結果を学務会議、FD等で共有し意見交換を行う。 |
|       | 継続 | DPの評価方法を確定後、授業評価アンケートの評価項目を検討する。    |

## 8. 教務部長からのお願い

### ① 成績評価について

- 成績評価について、科目ごとの到達目標を評価可能な形式で設定し、厳密な成績評価を実施してください。
- 合理的配慮は、評価の方法を変更すること（例えばレポートを口頭試験に変更する）であり、到達目標の変更を求めるものではありません。
- 2024 年度より、再試験制度を廃止します。学生には学期内の定められた期間に成果物を提出するよう指導してください。
- 学生自身の学修成果の改善・成長につないでいくために、可能な限り評価結果を本人に適切にフィードバックしてください。

### ② 履修手続きについて

- 履修相談期間（3 月、6 月、10 月）に担当学生の成績・履修状況を確認した上で履修指導や履修登録（3 月）・履修変更（6 月、10 月）の確認をしてください。
- 履修登録期間（3 月）に履修や聴講を検討している科目は（迷っていたとしても）全て登録するよう、担当学生を指導してください。履修変更期間（6 月、10 月）外の履修科目追加は 5,000 円の手数料がかかります。

### ③ インディペンデントスタディについて

- 学生からの希望を受けた教員がインディペンデントスタディを開講しようとする場合、科目提供学期開始の原則 2 カ月前までに「インディペンデントスタディ科目開講希望書（授業概要、到達目標、成績評価の方法）」を教務部に提出します。提出を受けて学務会議で審議し、承認された場合に開講となります。学生は、1 単位 20,000 円、2 単位以上 40,000 円の履修料を TCU に支払い、TCU から科目担当教員にその半額を支払います。

## 9. 学科長からのお願い

### ① コイノニアについて

- コイノニアのプログラムは各担当教員の裁量に基づき実施してください。
- ポートフォリオの作成を促し、学期の振り返りを行う機会をもってください。
- 教会実習の振り返りを行う機会をもってください。
- 進路について分かち合う機会をもってください。
- 学期に 1 回程度合同コイノニアを実施してください。  
2024 年度は祈禱部主催で合同コイノニアを企画する予定です。
- 前年度のプログラムと被らないように担任の間で調整してください。（2 年連続自己紹介等）

② クリスチャンライフ・フォーメーションの成績評価について

- 学生面談の時に学生自己評価書、教会実習評価書、卒業小論文（卒業予定者のみ）の確認を行い、入力していない場合は入力を促してください。
- CLF の成績を入力する際に、学生自己評価書、教会実習評価書の記載がない場合は「I」としてください。

10. グループディスカッション

- ① 今後検討が必要な課題
- ② 継続して検討が必要な課題に対する改善案
- ③ 各検討テーマに関する質問

＊「(英語)」表記は、英語トラックからの評価

1) 神学科目について

- ・学生のレベルの幅があり、授業内容をどのレベルに合わせるのか難しい
- ・実践神学領域・教会実習コースワークを増やすと良い
- ・幅広く提供できている（複数回答）
- ・科目を絞る必要がある（複数回答）
- ・教会音楽概論は、牧師になる人にとって必要
- ・教団教派を超えた学びが弱い。新しい視点も必要
- ・十分に統合されているとは言い難い（英語）
- ・概論的科目だけではなく専門的科目（組織神学など）が充実すると良い（英語）

2) 教養科目について

- ・学部は教養教育を学ぶ場所
- ・TCU の規模で、ICU レベルの教養教育の提供は不可能
- ・教育目標（Stand in the Gap）にふさわしい科目かどうかを精査する必要がある
- ・長いレポートだけではなく、短い文章であっても明確で論理的な文章を書く訓練が必要
- ・自然科学・社会科学（法律・経済・歴史など）の分野が足りない（複数回答）
- ・専門的学びとの連続性があると良い
- ・社会学系科目が弱い（英語）
- ・基礎演習（修辞学）的科目の充実が必要（英語）

3) 日本語・英語トラックについて

- ・両言語の学びを必須とすべき
- ・両言語で学ぶ科目が少ない（複数回答）
- ・寮生活と連動した科目があると良い
- ・両言語を用いたプロジェクト（学内外活動、学内行事、フィールドトリップ、演習、一緒に過ごす時間など）の取り組みが効果的。特に初年次において。
- ・表面には見えない英語トラックの神学教育の貢献を評価する必要がある
- ・バイリンガル科目を活用できるレベルの学生が少ない。言語の学びに力を入れると良い
- ・英語トラックの学生たちの日本語能力が向上すると良い（複数回答）
- ・英語トラック継続は経営上は難しいのではないか
- ・新カリキュラムになり、以前よりもバイリンガルクラスが充実した（英語）
- ・両言語を用いたバイリンガルクラスは望ましいが、目的が曖昧になっている（英語）

- ・日英の学生の協働の姿勢が向上してきている（複数回答）（英語）

#### 4) 専門科目

- ・多様すぎる傾向にある。基礎的・概論的な学びに集中する方が良い（複数回答）
- ・専門科目が少ない
- ・国外でマイノリティとなる異文化経験をすべての学生が経験できると良い。そのためのスポンサー募集をするのはどうか
- ・5専攻が分離している。クロス・横断して学べるカリキュラムになると良い（複数回答）
- ・ユースでは、科目選択の自由度が高いことで学生が自身の将来を考えながら科目を吟味できる結果となった。自由度があることは良い。
- ・各科目が、ユーススタディーズや福祉分野以外の分野を目指している学生たちにどのような効果があるのかが疑問（英語）

#### 5) そのほか自由記述

- ・外部への見せ方の工夫が必要
- ・ディプロマポリシー（DP）に照らした科目評価を学生・教員とも行うべき。DPに照らして高評価の教員は表彰を行うなどの評価システムの構築があると良い。
- ・総合神学科の良いシステムを十分に活かすシステムとリソース（学生の自由度を高めると学生は“楽そう”な授業を履修しがち、自由に選べるほどの科目数提供がない、など）が不足している
- ・初年次にグローバルや福祉の科目を学べると良い
- ・よりフレキシブルになると良い
- ・英語トラックを廃止すると、学科名に「国際」をつけることは難しいのではないか
- ・カリキュラム検討において、英語トラックの視点が十分に取り入れられていない
- ・国家資格取得できるコースがあると良い
- ・「TCUスタンダード」のような1年生と3年次編入生合同のクラスでは、1年をかけて協働的な雰囲気が育ってきた。目標としていた「共同体形成」に挑戦できたと思う
- ・経済的課題のため、器楽レッスンを受講できない学生がいる
- ・科目を絞り、統合的（神学・国際・福祉など）・横断的なTCUの特徴を出す科目にすると良い。
- ・教員の担当科目数は多いが一クラスあたりの受講人数が少なくなり教員の負担増となっていると感じる。（複数回答）
- ・海外派遣ワーカーもインターンの枠組みに入れると良い
- ・評価のためには、卒業生・在学生・学部評価（就職先など）からのフィードバックもあると良い（複数回答）
- ・教員がカリキュラム形成に情熱を持って協働的に取り組めると良い

# 付 録

東京基督教大学  
2023 年度 教員による授業相互評価 実施記録

- a. 対象教員：専任教員
- b. 教員相互評価実施率：100%
- c. 相互評価パートナー：互いに了解した二者、または学部長へ一任
- d. 評価項目：
  - 1. シラバスについて（到達目標は学生が何を達成すべき明確である。課題の内容・評価方法は理解しやすい。）
  - 2. 授業の構成（授業の到達目標、タイムスケジュールは明示されているか）
  - 3. 担当教員の指導（声の大きさ、わかりやすさ、熱意、学生の質問や意見に適切に対応しているか）
  - 4. 教材について（事前提供はあるか、教材のみやすさ）
  - 5. 授業方法（グループワーク、ディスカッション等の方法を効果的に活用しているか）
  - 6. 時間配分（質問の時間、意見交換の時間は確保されているか）
  - 7. 授業外の学修を促す工夫（授業録画の視聴許可、授業を振り返るためのワークシートの提供など）
  - 8. 課題について（取り組むべき内容や評価の方法は明確か、課題の量は適切か）
  - 9. 良い点を具体的に記述してください。
  - 10. 改善が見込まれる点を具体的に記述してください。

（英語版）

- 1. Regarding the Syllabus (The objectives are appropriate and clearly explained to the students. The contents of assignments and evaluation methods can be easily understood.)
- 2. Class structure (Are the class objectives and time schedule for progression clearly shown?)
- 3. Professor's instructions/guidance (How about speaking volume, understandability, passion, acceptance and appropriateness of response to students' opinions?)
- 4. About class materials (Were materials prepared beforehand, sufficiently visible/legible?)
- 5. Class Method (Were methods like groupwork or discussion used effectively?)
- 6. Time allotment (Was sufficient time given for question time or exchanging opinions?)
- 7. Strategies to invite study outside of class (recording of the class for review, preparing review worksheets, etc.?)
- 8. About assignments (Are the study topics and evaluation method clear? Is the volume of work appropriate?)

9. Please record well-performed points in detail.
10. Please record any points or suggestions for revision in detail.

東京基督教大学  
2023 年度 学生による授業評価アンケート 実施記録

- a. 対象科目：全科目（一部の実習科目を省く）
- b. 回答期間：各学期、授業の最終週から期末試験終了の 1 週間後まで
- c. 回答方法：TCU オンライン
- d. 記名式：無記名（性別 学年 専攻のみ記入）
- e. 質問項目：
  - 回答の選択肢（「履修した動機」以外の質問）
    - そう思う
    - どちらかと言えばそう思う
    - どちらとも言えない
    - あまりそう思わない
    - そう思わない
  - 1. 授業のわかりやすさ
    - a. この授業では到達目標が明確に示されていた
    - b. 授業内容のレベル（難易度）は適切だった
  - 2. 授業の進め方
    - a. 時間配分など、先生の授業の進め方は適切だった
    - b. 先生は、学生の理解度を確認しながら授業を進めていた
    - c. 授業で課される課題の量は適切だった
    - d. 先生は、学生が質問や意見を述べられるように配慮していた
  - 3. 先生の態度・対応
    - a. 学生からの質問・提出した課題等に対して、先生から適切なフィードバックがあった
    - b. この授業に対する先生の熱意を感じた
  - 4. 学生の動機
    - a. この授業を履修した動機は何ですか？  
（回答の選択肢） 単位を取りたいから、時間があったから、将来に役立つから、先輩に勧められたから、必修だから、シラバスを読んで興味をもったから、  
○○先生が担当しているから、その他
  - 5. 学生の理解
    - a. この授業の内容を理解できた
    - b. シラバスに書かれているこの授業の到達目標を達成できた
  - 6. 学生の興味
    - a. この授業の分野について、興味・関心が湧いた
    - b. この授業を後輩にも勧めたいと思う
  - 7. 学生（自分自身）の態度・対応
    - a. 授業中に積極的に質問や意見を発言した
    - b. 授業時間があっという間に過ぎるように感じた
    - c. この授業の予習や復習に十分な時間をかけた
    - d. この授業を受けて満足した
  - 8. 自由記述
    - a. この授業を履修して良かったと感じる点をお書きください
    - b. この授業をより魅力的にするために、具体的な改善策（環境、教材、課題、進め方の工夫等）を提案してください

(英語版)

Answers (Except for question #9, 18, and 19)

- I agree
- I moderately agree
- No opinion
- I moderately disagree
- I disagree

Questions

1. The goal of the course was clearly stated.
2. The level of difficulty of this course was appropriate.
3. The pace and time allocation of class was appropriate.
4. The instructor checked students' understanding as he/she taught.
5. The amount of assignments was appropriate.
6. The instructor made it comfortable for students to ask questions and share comments.
7. The instructor gave appropriate feedback for students' questions and assignments.
8. The instructor was passionate about the lesson content.
9. What were your motivations to take the course?
  - a. To earn credits
  - b. I had time.
  - c. It will benefit my future.
  - d. My senior(s) recommended the course.
  - e. It was a compulsory course.
  - f. I was interested in the course when I read the syllabus.
  - g. The instructor is \_\_\_\_\_ sensei.
10. I understood the lectures.
11. I achieved the goals of the course stated in the syllabus.
12. My interest in the academic discipline of the course increased.
13. I would recommend this course to others.
14. I actively asked questions and shared my comments in the class.
15. I felt that time flew by during the class.
16. I spent enough time preparing and reviewing the course (outside the classroom).
17. I was satisfied with this course.
18. What were the best aspects of this course?
19. How could this class be improved? Please provide concrete examples (Class environment, Lecture Materials, Assignments, etc.)

# 東京基督教大学

## 2023 年度第 1 回ファカルティフォーラム

# 紀要合評会

日時 : 6 月 20 日(火) 15:50-18:10

会場 : FCC チャペル

Date: Tuesday, June 20      Time: 15:50-18:10

Place: FCC chapel

Program: Article/thesis review from TCU Journal "Christ and the World" No.33

「マルティン・ルターの救済論における神学的突破

『ローマ書講義』とアウグスティヌスの恩恵論」

発表者 須藤英幸先生

講評者 斎藤五十三先生

「日本基督教婦人矯風会機関誌『婦人新報』にみる錦織久良の廃娼論」

発表者 岩田三枝子先生

講評者 山口陽一先生

『キリストと世界』第 33 号掲載  
の須藤先生と岩田先生の論文を  
事前に読んでご参加ください。  
また、当日『キリストと世界』  
をお持ちくださいますようお願い  
いたします。

ファカルティーディベロップメント委員会  
TCU Faculty Development Committee

## 2023 年度ファカルティ・ディベロップメント活動報告

---

2024 年 5 月 1 日 発行

編集・発行 東京基督教大学

〒270-1347 千葉県印西市内野 3-301-5

電話 (0476) 46-1131

FAX (0476) 46-1405

<https://www.tci.ac.jp/>

---

©東京基督教大学 2024 年